

(福) ケアハウス信愛館

◆周囲の山々では秋の気配を感じます。その一方でコロナ感染のニュースを耳にしない日は一日としてありません。信愛館でも感染防止対策の一環として、食堂に飛沫感染防止シートを設置しました。

◆九月十六日(水)の「敬老会」では入居者の吉信清子さんに「書」について話していただきました。まず生い立ちから、そして満州での生活、教師時代、そして小学生の日記がきっかけとなった「書」との出会いについて語られ、続いてご自身の作品を前にまず書体、そして筆、墨、和紙などについてとてもわかりやすく説明していただきました。

信愛館で長きに渡り書道クラブの指導者でもある吉信清子さんが一文を寄せられました。

「信愛館に入居して」 吉信清子

私は当信愛館にお世話になり此の十月で一年となります。私も当初は人生最後の住まいとして選び入居するには皆様との人間関係、食事のこと、生活のリズム等不安ではありません

した。しかし、私は数年この信愛館に一ヶ月に一回書道教室を入居者のご希望によりもつていましたので数名の方と親しくさせて頂きその熱心さに感心していたこともあり安心して入居できた様に思います。そして入居しましたところ、俳句や俳画、大正琴、讚美歌や歌う会等、趣味のサークルを仲間で積極的にもち、楽しんでおられるのは半ば驚きました。これは、楽しいだけではなく、良き仲間づくり人間関係に素晴らしいことだと思っております。又、この様に入居者が集まることが出来る集會室、談話室のあることは何より有難いことです。これはヴォーリズ精神「信愛」

「愛によって働く信仰を有する一大家族」を元に設計されることです。音響・映像設備もあり、映画やカラオケ等楽しく集いをされています。これが行楽の季節にはグループでの吟行やお花見、見学会等の出掛けとなりよい機会となつ



ています。しかし入居者五十名、年令もあり介護度が高くなり他の施設へ移られる方もあります。入居者ひとりひとりの老いの現実は一異なりですが厳しいものです。これが又、お互いに刺激となり、毎日の食事や運動について自分自身の努力の大切さを自覚し努力されている様に思います。これは、集団生活なるが故のお互いに高め合える良きことかと思っております。入居時には終の住み処として選び毎日を送っている私達―悩みもあり不満もありますが、施設長様はじめ事務の方々、三食賄い付きのお世話を頂いている厨房の方々の日々のご努力で気楽にお話ができ解決されています。毎月のお誕生会で一人

一人が大切にされ皆で築きあげていくこの「ケアハウス信愛館」をいつまでもくくと念じています。これからも入居者皆様の思いを大切にし、職員一同心を合わせ、日々精進したいと思えます。